



これからの期待

同窓会「秋桜会」 阿部順吉^{しゅうおう かい} 会長

閉校式には、関東や愛知県からも同窓生が駆けつけました。それぞれに、母校が無くなってしまふことへの惜別の念があったのでしょう。情報ビジネス科への転換や国際交流など、数々の学校の取り組みは町民にとっても大きな刺激となりました。小さな学校の大きな活躍は、町に勇気と感動を与えました。それだけ、地域と密接な関係があった学校でした。また、会えばいつも学校のことばかりを考えている、熱心な教師たちにも支えられてきました。少子化という現実を受け止めざるを得ないものの、小規模校だからこそ成し得たことも評価するべきと思っています。

同窓会名にもなっている「秋桜」とは、優しく美しい花を咲かせるコスモスのことであり、コスモスは宇宙を意味しています。卒業生の皆さんには、「秋桜」の精神のように世界のどこにいても優しさを忘れずにこれからも頑張ってください。たとえ学校が幻のものとなっても、わたしたちの母校は同窓生たちの心の中にずっと生き続けています。困ったことがあったら、同窓生を訪ねてください。

「秋桜」の精神を忘れず、頑張ってください。



遠野高校 千葉和夫^{かず お} 校長

少子化という時代の流れとはいえ、61年の歴史と伝統を誇る情報ビジネス校が閉校することはとても残念なことです。これまで多くの方々のご支援と情熱に支えられながら、地域の中心的担い手として大きく貢献してきました。これまで社会に送り出した卒業生は2471人を数え、地元はもちろんのこと、全国各地で活躍しています。

最後となった34人の卒業生の皆さんは、後輩のいない寂しさ、部活動でチームが組めないむなしさにも負けず精一杯活動してきました。生徒のひたむきな姿は、多くの人たちにも感動を与えました。さまざまな困難を乗り越えたという経験と自信を生かし、これからは自分の道と、大きな幸せを追求していきましょう。

これまで情報ビジネス校が続けてきたカシミア高校との国際交流は、遠野高校で本年度以降も引き続き行うこととしています。61年間の歴史で築かれた「世界がステージ、未来がテーマ」のスローガンの志は、遠野高校がしっかり受け継ぎたいと思っています。

自分の道、大きな幸せを追求してほしい



生徒会副会長 菊池美咲^{み さき} さん

わたしたちにとって思い出のたくさん詰まった母校がなくなることは、とても寂しく悲しいことです。しかし、情報ビジネス校がなくなっても、この校舎で過ごした思い出はいつまでもわたしたちの心の中に残り、また母校として存在し続けることと思います。

入学式、高総体、体育祭、国際交流一。わたしたちは入学以来、何をするにしても「最後の…」と言われ続けてきました。人数が少ない分、みんなが一人一役。情報ビジネス校での生活で、何でもチャレンジすることと責任感の大切さを実感しました。

最後となった今年の体育祭などの行事は、さまざまな苦労もありましたが、とても良い思い出です。閉校式の日を迎えて、一つの学校がなくなることの重さを実感するとともに、61年間にわたり地域の多くの方々、同窓生の方々、先生方のおかげで情報ビジネス校がある、そして今のわたしたちがあることを実感しています。この学校で学んだことを誇りに思い、身に付けたさまざまなことを、これから社会に出て恩返ししていきたいと思っています。

地域や社会への恩返し、歩むべき道



生徒会長 菊池祥平^{しょう へい} 君

学年が一つしかなく、何の行事を行うのも大変な一方で、何とかしなければならぬという使命感もありました。学校の最後であり、人数が少ないというハンデを逆手に取って、「自分たちにしかできないことをやろう」と、みんなでがむしゃらに頑張ってきました。先生も、僕たちと同じ目線で一緒に考え、激励してくれました。

保護者や地域の方々を招待した最後の体育祭では、計画通りスムーズには進みませんでした。でも、全員が行事を成功させようと協力してくれ、大切な仲間が存在に気付かされました。情報ビジネス校で学んだ3年間は、生徒会長として自ら考え行動する力が身に付きました。部活動やあらゆる行事では人数が少ない分、みんなが主役になれた気がします。大きな学校でしかできないこともあると思いますが、小規模校だからこそできることがあるという自信が持てました。この学校で学んだ何事にも一生懸命立ち向かう姿勢は、これから進学し、社会に出ても忘れず持ち続けていきたいと思っています。

一生懸命立ち向かう姿勢は、忘れない

◎取材を終えて
終わりとは、
新たな始まりの時

取材を進めるにつれ、情報ビジネス校が地域に貢献してきた役割の大きさに気が付かされた。高校生の学びやとしてだけでなく、地域の人も共に歩んできた61年の歴史であった。生徒と教師、保護者だけでなく、地域も一体となり、学校、家庭、地域が連携する形は、本来の教育の姿であったと思う。

この春、情報ビジネス校のほか県内では23の小・中学校、5つの高校が長い歴史に幕を閉じた。少子高齢化、人口減少により進む過疎、完全な回復が見込まれない雇用状況など、依然、地方を取り巻く厳しい状況は続く。▽教育環境を自ら創造・発展させてきた「開拓の精神」▽普通校には負けないという「分校魂」▽幾多の就職難の時代も、就職率100%を達成した成果。情報ビジネス校が築いた歴史と数々の

成果は、地域の誇りであり地域文化の象徴であった。過疎が進む町で、学校は大きな活力を与えてきた。地域の人々と歩んだ国際交流や福祉の心は、今も多くの人たちの心の中に生き続けている。歴史の終わりは同時に、新たな始まりの時でもある。これからの始まる新たなステージへ、みんなで歩み出そう。学校が地域に、再びともし続けたを灯りを、再びともしつために。特集「新しいステージへ」完

【参考文献】
▽50周年記念誌「コスモス」
▽60周年記念誌「秋桜」



生徒たちの活躍を見届けてきた、敷地内に立つ石碑。これからもこの地で、地域の活躍を見守り続ける